

滋賀県立高等学校再編計画(原案)説明会 意見概要 <彦根会場>

日 時 平成23年(2011年)7月31日(日) 10:00~12:15
場 所 ひこね燦ぱれす 多目的ホール(参加者60名:発言11名)
主 な 意 見 同趣旨のご意見については集約して取りまとめました。

生徒数は、今後10年は減らない。横ばいと見るのが一般的である。生徒が平成2年から6千人減って、他県より予算がはるかに多いから学校を減らすのか。

生徒が減少というが、滋賀県は人口増加県。教育にもっとお金をかけるべき。

全県一学区制度になって、どの学校も特色ある学校づくりに取り組んでいるのに、なぜ再編するのか。

それぞれの学校が取り組んでいる中身を検討して、それでも統合が必要なこと、統合校をどうすれば良いのかということが聞こえてこない。教育をどうするのかという理念がない。

小人数だから人間的なふれあいができる。学校規模が大きくてそれができるか。

耐震という子どもの命に関わるような必要なものを最優先にしてお金をかけるべき。

滋賀県の高校の教育費は全国で45位、この再編により47位になる。1校で6千万円の削減、10校減らしたとしても6億円である。企業奨励金を3分の1減らせばよい。

平成26年に統合で、平成24、25年度は生徒募集があるなら、平成24年度入学生が高2、高3のときはどのように対応するのか。後輩がいない学校というのは県として無責任ではないか。

長浜など県北部から働きながら学ぶ生徒は能登川には通えない。そういう生徒を切り捨てるのか。

経済的に厳しい生徒は今後増える。通学費が高いと通えない。

授業料は無償になったが、経済的に厳しい生徒も増えている。進路保障が変わってきた。私立へは行けないので公立で勝負し、駄目な場合は定時制という生徒が増えてきている。定時制へ行く生徒が増えて、全日制へ行けない生徒が増える。

能登川に定時制課程ができるのは、日野町からも通えるのでありがたい。

能登川高校(総合単位制高校)は複雑なシステムである。うまくいくのか。教員は確保するのか。

彦根市内の生徒数を見ると、今の中学校3年生が1,051人で、今の0歳児は1,171人おり、120人増える。生徒数は増えるのに、学校は減らすのか。

彦根西高校と彦根翔陽高校を統合して、9学級から6学級にするというのは無茶な話である。

彦根西高校が取り組んできた「学びの共同体」などの実践をどう評価しているのか。

彦根西高校の「学びの共同体」など、先生の親身な取組で子どもが成長し、学校も良くなった。是非残してほしい。

彦根西高校は教員が一丸となって魅力と活力ある地域の学校づくりに取り組んでいる。こんな学校をなくさないでほしい。

彦根西高校は最先端で魅力と活力づくりに取り組んでいる。授業中に生徒が寝ない学校をつくるという取組は小規模校でないとできない。全県でそういう学校をつくるというのなら分かるが、それをなくすというのは全く理解できない。

総合学科で彦根西高校が取り組んできた家庭科教育ができるのか。

彦根西高校は125年の歴史を持つ伝統校。それを廃校にする理由は何か。

計画の白紙撤回はあるのか。意見交換により大幅な修正はあるのか。

先に新聞報道で再編を知るのはおかしい。事前に生徒や保護者に説明すべき。

これから高校を受検する生徒や保護者に説明ができていない。中学校の先生がきちんと生徒や保護者に説明できるようにしてほしい。説明が異なると受検生に有利不利ができる。

経済的基盤が厳しい家庭、貧困率が増えている中で、地域の公立学校が望まれているのにこのような再編があるのか。

高校改革のように上からの改革はよくない。塾へ行かないと公立高校から進学できないのはおかしい。

中学校卒業生は何人で、全日制へ行けるのは何人なのか。中学校はそこを心配している。どのような見通しを立てているのか。